

# 海草藻場の変化について

平成30年5月

沖縄防衛局

# 海草藻場の生育状況の変化

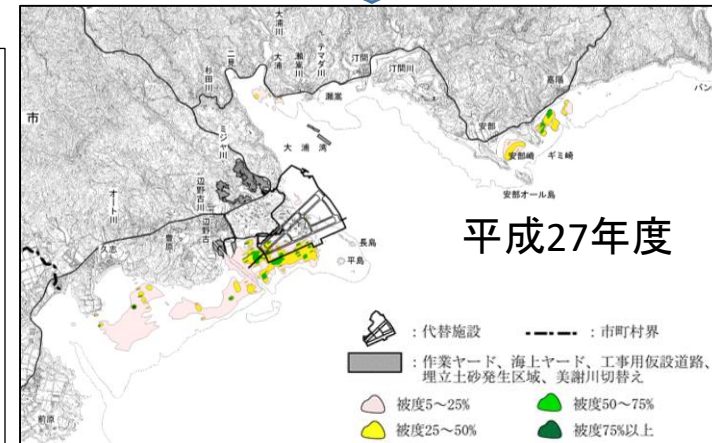
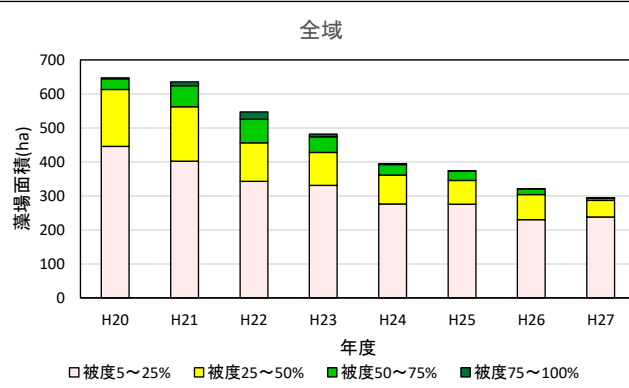
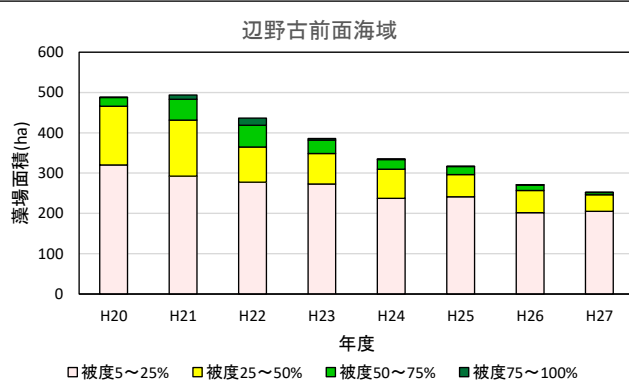
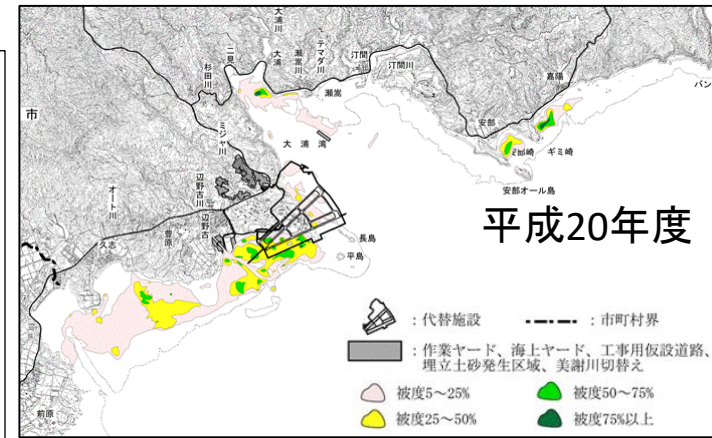
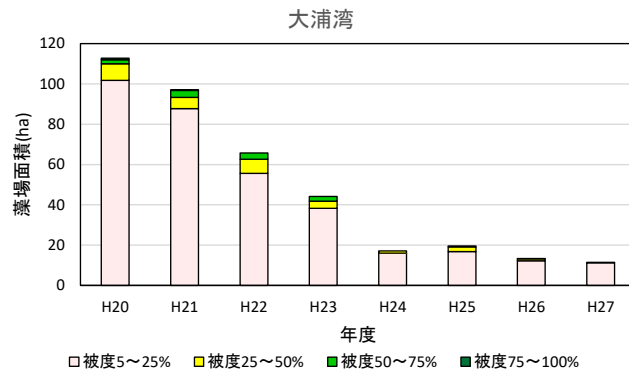
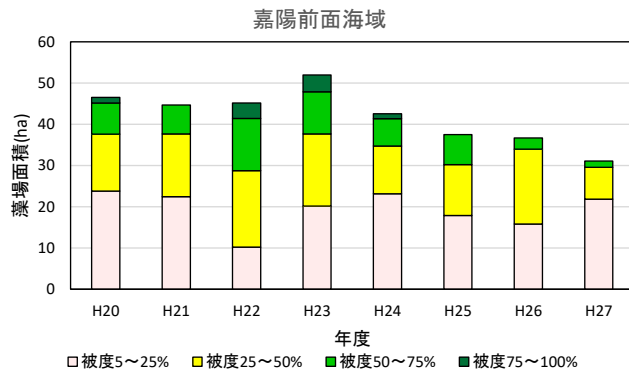
海草類の移植や生育基盤の改善による生育範囲拡大を検討するため、その前提となる改変区域周辺の海草藻場の生育状況について調査・分析したもの

## 1. 海草類の生育範囲・面積

- ・本調査海域における海草藻場の面積は、平成21年度以降、減少傾向にある。
- ・海草藻場面積の減少は、辺野古前面海域(主に豊原から松田にかけての海域)と大浦湾(主に大浦湾奥部)で大きく、嘉陽前面海域での減少は比較的小さい。
- ・被度別にみると、被度50%未満(主に被度5~25%)の面積の減少が大きい。

【海草藻場分布の変化】

【海草藻場面積の変化】





②辺野古前面海域・・・改変区域前面の東側では、生育範囲、被度ともに安定している。西側では、生育範囲は比較的安定しているが、高被度域が縮小するなどの被度の変化が見られるところ。

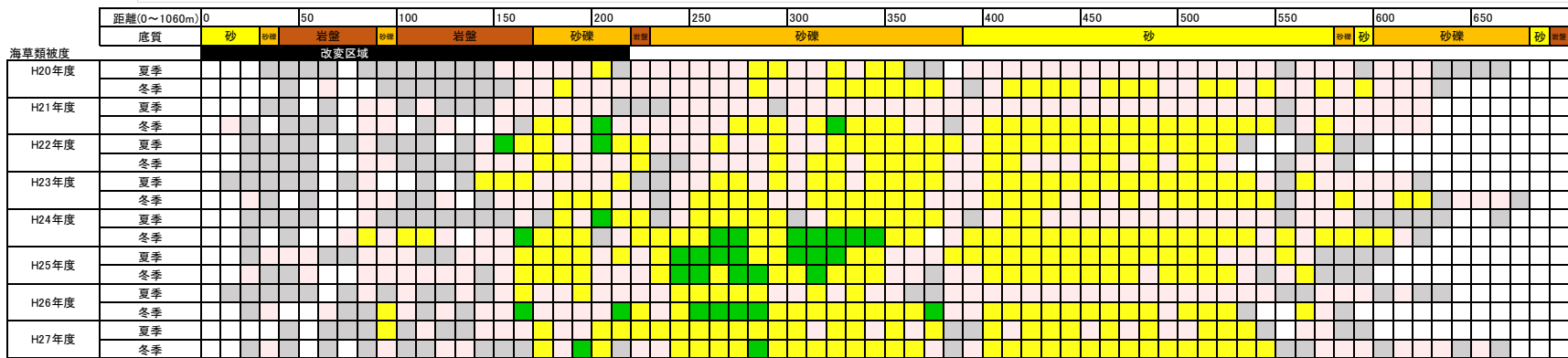
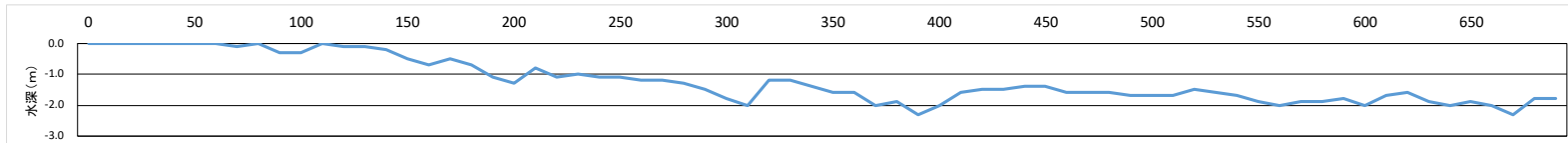
辺野古漁港と改変区域との間は、生育範囲は比較的安定しているが、高被度域が縮小するなどの変化が見られるところ。辺野古漁港前面及び久志前面では、生育範囲、被度ともに減少。

○測線:L-60

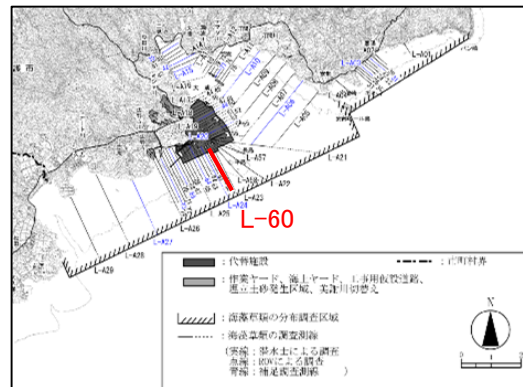
(改変区域前面の東側)

種組成:リュウキュウスガモを主体として、ウミジグサ属、ボウバアマモ、ニラウミジグサ、ウミヒルモなどが混在

調査測線:L-60

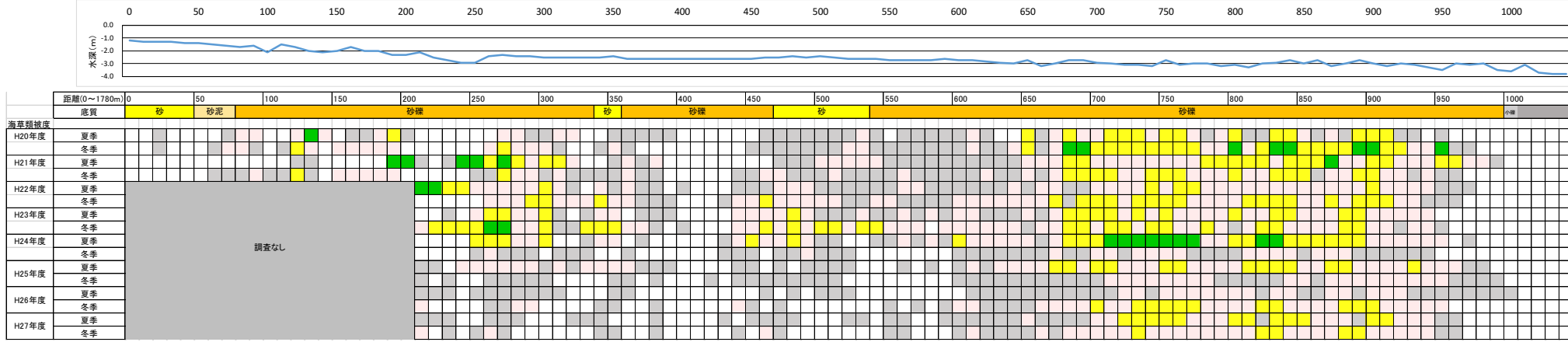


【凡例】  :被度5%未満  :被度5~25%  :被度25~50%  :被度50~75%  :被度75~100%



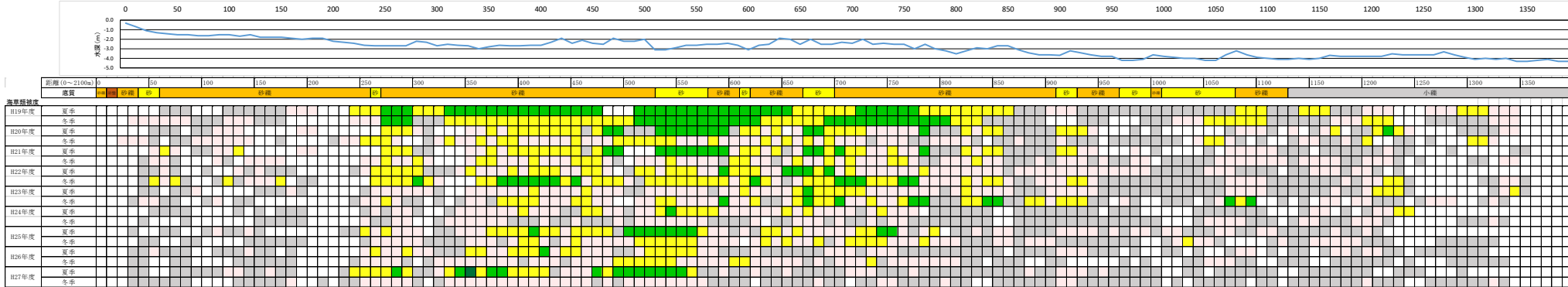
○測線:L-26(辺野古漁港前面) 種組成:リュウキュウスガモ、ウミジグサ属を主体として、ウミヒルモ、ボウバアマモなどが混在。

調査測線:L-26

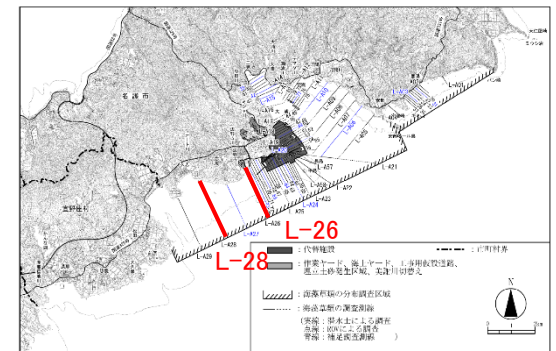


○測線:L-28(久志前面) 種組成:リュウキュウスガモ、リュウキュウアマモ、ボウバアマモを主体として、ニラウミジグサ、ベニアマモなどが混在。

調査測線:L-28



【凡例】  : 被度5%未満  : 被度5~25%  : 被度25~50%  : 被度50~75%  : 被度75~100%

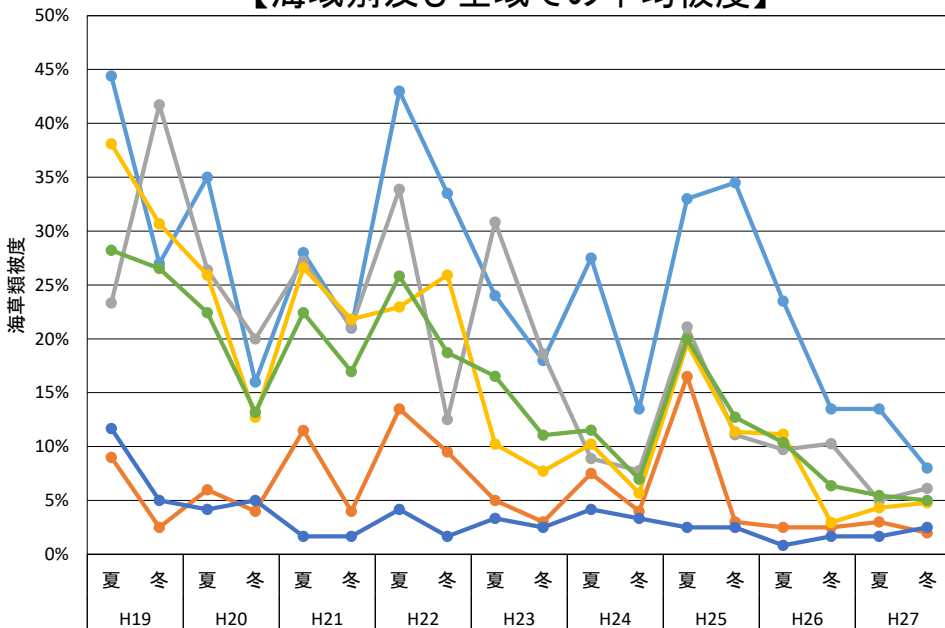




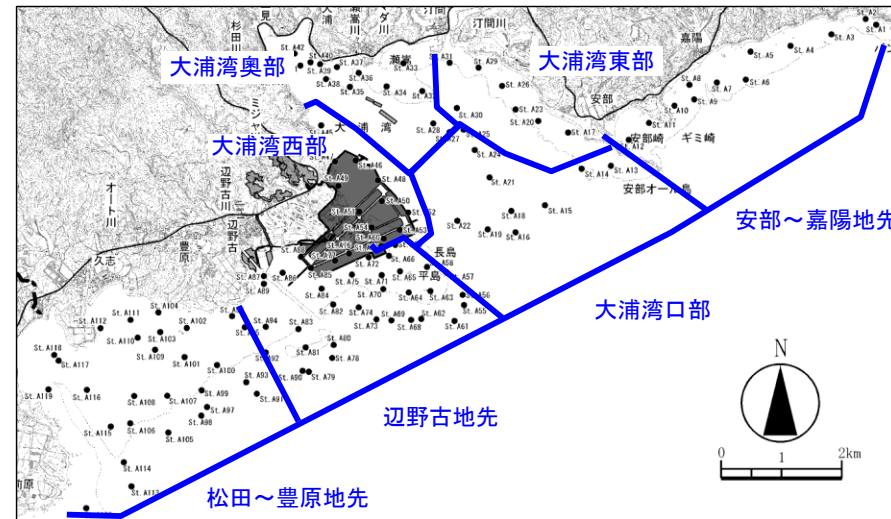
## (2) スポット調査での生育被度

- ・被度の比較的高い「安部～嘉陽地先」、「辺野古地先」、「松田～豊原地先」の平均被度は、類似した変動傾向を示しながら、平成19又は20年度以降、減少傾向。
- ・「大浦湾奥部」では、平成19年度夏季から平成25年度冬季までは、おおむね夏季増加・冬季減少の季節変化を示していたが、平成25年度冬季以降は夏季、冬季ともに5%未満。
- ・「大浦湾西部」は、平成19年度夏季は10%台を示していたが、平成19年度冬季以降は5%以下。
- ・全域平均では、平成19年度夏季から平成20年度冬季にかけて連続的に減少したのち、平成21年度夏季から平成22年度夏季までは20%前後まで回復したが、平成22年度冬季以降減少し、平成24年度冬季には7%、平成25年度夏季に20%まで増加したが、その後、平成27年度冬季まで連続して減少。

【海域別及び全域での平均被度】



【海域区分】



注) スポット調査における海草被度の海域別平均値を示す。

## 3. まとめ

今後検討を行うこととしている海草藻場の生育範囲拡大については、高波浪に伴う砂の移動を検討し、台風などの影響を受けにくい場所を検討する考え。

また、引き続き、海草藻場の被度の変化について、調査及び分析をする考え。